

## 川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22054

建築物名称	(仮称)プレス工業(株)厚生事務棟新築工事
建築主	プレス工業株式会社 代表取締役 美野 哲司
建築物の所在地	川崎市川崎区塩浜一丁目1番1ほか8筆
設計者氏名、建築士事務所名	内山 泰 積水ハウス株式会社 東日本特建支店 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	3,993.83㎡
用途	事務所、駐車場
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
工事完了予定年月	令和6年3月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

# Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency CASBEE川崎

■使用評価マニュアル：CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト：CASBEE-川崎2017(v.3.1)

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観		22054
建物名称	(仮称)プレス工業㈱厚生事務棟新築工事	階数	地上3F	外観パース等 パースの公表を希望される場合は 図を貼り付けてください
建設地	川崎市川崎区塩浜1-1-1	構造	RC造	
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	140人	
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000時間/年(想定値)	
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2024年3月 予定	評価の実施日	2023年1月10日	
敷地面積	47,456㎡	作成者	積水ハウス㈱ 東日本特建支店	
建築面積	1,417㎡	確認日	2023年1月10日	
延床面積	3,994㎡	確認者	積水ハウス㈱ 東日本特建支店	

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 2.4

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.1

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>1.6</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		1.0/4.3	1.2
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.7</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備		0.4/0.7	3.0
3.2 3.2.1 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.66		
2 自然エネルギーの利用		4.2/5.0	4.2
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.59		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	躯体+軽鉄+仕上材	2.7/4.7	2.9
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	ライフサイクルCO2排出率=70%	0.3/0.8	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.4</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	住宅の品質確保の促進に関する法律における木材、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で等級3相当	0.3/0.5	3.8
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水コマと省水型機器(擬音装置)を採用	2.3/4.0	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.4
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>2.5</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.6/2.3	1.3
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.66		
2 自然エネルギーの利用		4.2/5.0	4.2
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.59		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	5.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		4.2/5.0	4.2
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
	G	W	R	H								
<b>Q 建築物の環境品質</b>												2.4
<b>Q1 室内環境</b>												2.9
<b>1 音環境</b>												3.0
1.1 室内騒音レベル												3.0
1.2 遮音												3.0
1 開口部遮音性能												3.0
2 界壁遮音性能												3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												3.0
1.3 吸音												3.0
<b>2 温熱環境</b>												3.0
2.1 室温制御												3.0
1 室温												3.0
2 外皮性能												3.0
3 ゾーン別制御性												3.0
2.2 湿度制御												3.0
2.3 空調方式												3.0
<b>3 光・視環境</b>												3.0
3.1 昼光利用												3.0
1 昼光率												3.0
2 方位別開口												3.0
3 昼光利用設備												3.0
3.2 グレア対策												3.0
1 昼光制御												3.0
3.3 照度												3.0
3.4 照明制御												3.0
<b>4 空気質環境</b>												2.8
4.1 発生源対策												3.0
1 化学汚染物質												3.0
4.2 換気												2.3
1 換気量												3.0
2 自然換気性能												1.0
3 取り入れ外気への配慮												3.0
4.3 運用管理												3.0
1 CO <sub>2</sub> の監視												3.0
2 喫煙の制御												3.0

Q2 サービス性能					—	0.30	-	-	3.0			
<b>1 機能性</b>						<b>2.5</b>	0.40	-	-	2.5		
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>						<b>2.3</b>	0.40	-	-			
1	広さ・収納性				3.0	0.33	3.0	-				
2	高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-				
3	バリアフリー計画				1.0	0.33	-	-				
<b>1.2 心理性・快適性</b>						<b>2.3</b>	0.30	-	-			
1	広さ感・景観				1.0	0.33	3.0	-				
2	リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-				
3	内装計画				3.0	0.33	-	-				
<b>1.3 維持管理</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-			
1	維持管理に配慮した設計				3.0	0.50	-	-				
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.2</b>	0.30	-	-	3.2		
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>						<b>3.0</b>	0.50	-	-			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80	-	-				
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20	-	-				
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>						<b>3.8</b>	0.30	-	-			
1	躯体材料の耐用年数	R			5.0	0.20	-	-				
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20	-	-				
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R			5.0	0.10	-	-				
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10	-	-				
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R			5.0	0.20	-	-				
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			3.0	0.20	-	-				
<b>2.4 信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.20	-	-			
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-				
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-				
3	電気設備				3.0	0.20	-	-				
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-				
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-				
<b>3 対応性・更新性</b>						<b>3.4</b>	0.30	-	-	3.4		
<b>3.1 空間のゆとり</b>						<b>4.6</b>	0.30	-	-			
1	階高のゆとり				5.0	0.60	3.0	-				
2	空間の形状・自由さ				4.0	0.40	3.0	-				
<b>3.2 荷重のゆとり</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-			
<b>3.3 設備の更新性</b>						<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20	-	-				
2	給排水管の更新性				3.0	0.20	-	-				
3	電気配線の更新性				3.0	0.10	-	-				
4	通信配線の更新性				3.0	0.10	-	-				
5	設備機器の更新性				3.0	0.20	-	-				
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-				
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						—	0.30	-	-	1.1		
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W					H	1.0	
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G							1.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>											1.5	
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>											1.0	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W						H	2.0

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4	
LR1 エネルギー										4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制	W		H	BPI=0.66		5.0	0.20	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用	W		H			3.0	0.10	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化	W		H	[BEI][BEIm] = 0.59		5.0	0.50	-	-	5.0	
4 効率的運用						2.0	0.20	-	-	2.0	
集合住宅以外の評価						2.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング	W		H			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	W		H			1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価						3.0	-	-	-		
4.1	モニタリング	W		H			3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制	W		H			3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										2.9	
1 水資源保護	W		R			3.4	0.20	-	-	3.4	
1.1	節水				節水コマと省水型機器(擬音装置)を採用		4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用						3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無						3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無						3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減						2.7	0.60	-	-	2.7	
2.1	材料使用量の削減	W		R			3.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	W		R			3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	W		R	-		3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	W		R	-		1.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	W		R			2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	W		R	躯体+軽鉄+仕上材		4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						3.0	0.20	-	-	3.0	
3.1	有害物質を含まない材料の使用						3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避						3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	W					-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	W					3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	W					3.0	0.50	-	-	
LR3 数地外環境										3.0	
1 地球温暖化への配慮	W			ライフサイクルCO2排出率=70%		4.1	0.33	-	-	4.1	
2 地域環境への配慮						2.3	0.33	-	-	2.3	
2.1	大気汚染防止						3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	G	W		H	2.0	0.50	-	-		
2.3	地域インフラへの負荷抑制					2.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減				R	3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制				R	3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制				R	2.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制				R	1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮						2.7	0.33	-	-	2.7	
3.1	騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-		
1	騒音					3.0	1.00	-	-		
2	振動					-	-	-	-		
3	悪臭					-	-	-	-		
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制					3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制					3.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-		
3.3	光害の抑制					1.6	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策					1.0	0.70	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-		